



▲山崎記念 中野区歴史民俗資料館 (2006年3月撮影)

中野区のシンボル

～区の木 区の花～

中野区には緑化のシンボルとなる「区の木、区の花」と緑化推進の合言葉「みどりの標語」がある。

区の木・・・しいの木

区の花・・・つつじ

みどりの標語・・・みんなで育てるみどりの中野

ほか5つ

1978(昭和53)年、中野区では区内の緑の実態調査を行った。中野が区となる直前の1931(昭和6)年には7割※りよくひりつあった緑被率も、戦争とその後的人口増加による街の発展の結果、1割にも達していないことが判明した。区は進んで地域の緑化に取り組みことして、その初めの一歩として、「区の木」、「区の花」、「みどりの標語」を募集した。どれも500以上の応募があり、作家で、中野区教育委員を務めた経験のある田中澄江たなかすみえ氏を会長とした選考委員会によって選定された。

しいの木は、中野区にとっては区の逸話や昔話に度々登場する木である。主に屋敷林として植えられてきたしいの木は、開発によって次第に数を減らしていった。現在も中野区立歴史民俗資料館東側にたたずむ山崎家の茶室・書院の庭などには、屋敷林のあった時代の姿を色濃く残している。

つつじは、日本に古くから身近にある花であり、現在でも街路樹や庭木として私たちの日常を彩っている。多くの自治体がシンボルとして指定しており、中野区のほか新宿区、豊島区、練馬区なども区の花に指定している。

こうして区の木、区の花となったしいとつつじは、公園などに積極的に植栽されるようになり、新井薬師前駅ちかくの五中つつじ通りや、江古田四丁目の江古田えごよんしいの木公園などの地名などにも使われるようになった。中野区立図書館報のタイトルである「シイビブリア」も、区の木である「しい」と図書館を意味する「biblio」をあわせた造語となっている。

参考文献

- 『中野区みどりの実態調査報告書』中野区都市環境部計画課／編
- 中野区 1979 所蔵：中央
- 『中野区報 縮刷版 NO.4』中野区企画部広報課／編
- 中野区 1985 所蔵：中央・本町・野方・南台・鷺宮・東中野

※対象となる地域の面積に対して緑被地が占める割合

中野区のシンボル ～区の木 区の花～

中野区立図書館報『シイビブリア』のページへ行く

中野区のシンボル ～区の木 区の花～

中野区立図書館ホームページへ行く